



ましきな

校是：向学 誠実 開拓
 与論町立那間小学校
 TEL 0997-97-2278
 FAX 0997-97-4950



「ありがとう」と「あたりまえ」

那間小学校 校長 有留 雄一郎

2月も半ばを過ぎようとしている。先日、本校5年生の「十三の祝い」が開催され、本校職員5名と出席させていただいた。この「十三の祝い」は私の知る限り、県内では与論だけではないだろうか。この後、子供たちは12年ごとの「年の祝い」へ続く。会場の叶公民館は子供たちのハレの日を祝わんと至るところが華やかにディスプレイされ、保護者の方々もいつもと雰囲気が違う正装だ。この日のために多くの保護者が企画・運営に関わったと聞いた。



多くの方々から祝福のメッセージをいただき、5年生13名、誰一人欠席することもなく元気にこの日を迎えることができた。

「尊尊我無(トトウガナシ)」。「ガナシ」には「愛する」という意味もあり、ふだん私たちがつかう「ありがとうございます」よりもっと奥深く、日本で一番きれいな方言と自分は解釈している。

2月の全校朝会では「ありがとう」について考えてみたいと思い、子供たちに「どんなときにありがとうを使いますか。」と尋ねた。「何かしてもらったときに使う」「プレゼントをもらったとき」などの答えが返ってきた。何かの代償として「ありがとう」を使うということとなる。次に「ありがとうの反対の言葉は。」と尋ねてみた。子供たちの反応は「???」である。「ありがとう」は漢字にしてみると「有り難い」…字のごとく有ることが難しいということ。滅多にないということ。これらのことから「ありがとう」の反対は「あたりまえ」となる。だからこうして親が子供のためにお祝いをするのは、「あたりまえ」ではなく「有り難い」ことで「ありがとう」なのである。

日々の生活の中でも同じ。「暖かい布団で眠ることができる」「朝・昼・夕とご飯がある」「着る服がある」「学校で勉強できる」「バレーやサッカーができること」「買い物ができる」などなど。私たちは日常のあたりまえの中で生活している。

十三の祝いの席で、あるお母さんの「ここまで元気に育ってくれてありがとう」というメッセージがあった。「この子がいるおかげで助かっている」というお父さんもいた。聞いていた私の心に、じわーっとあたたかさかかじみ、そして響いた。昨年の7月号のましきなで「命」の話に掲載したが、まさしく命はリレーされている。親がいるから私たちが今ここに存在する。そしてその命は周りのみんなから見守られ、これもまた繋がる。そしてまたその命は次の新しい命へ繋がっていく。こうして存在していることに感謝である。このリレーは誰も切ってほしくはないし、切られてはならないリレーなのだということも子供たちに分かってほしい。

さて「ありがとう」に戻る。人気のアニメ「ワンピース」。海賊王を夢見る少年「モンキー・D・ルフィ」を主人公とした海洋冒険のアニメである。

「ルフィはなぜあんなに仲間がどんどん増えていくのでしょうか。」十数年前、教育相談研修の中で、ルフィのフィギュアを手を持って登壇した講師の問いである。答えはこうだった。ルフィは決して仲間を裏切らない、そして「ありがとう」「サンキュー」という言葉をよく使っているからだ。作者の尾田栄一郎さんは「夢への冒険・仲間たちとの友情」といったテーマのもと「ありがとう」にこだわって作品を作っているのだ。だから作品が1997年からずっと続いているのだと思う。「あたりまえ」だと思っていることが、実は「あたりまえ」ではない。そして、そのことに対して、素直に「尊尊我無(ありがとう)」と言えるかっこよく優しい子供たちがこの那間小学校にもっともっと増えてほしいと願う。その前に私たち大人もそうありたいと全校朝会で話をしながら思うことだった。



～能登半島地震募金～ 那間小そして校区の3つの商店から80,522円集まりました。「お年玉から募金したよ。」という子供もたくさんいたようです。

16日に田畑町長へお届けしました。この後、社会福祉協議会を通じて石川県の方へ届けてくださるそうです。たくさんの御協力ありがとうございました。

2月

- 19日(月) ユンヌフトゥバの日
- 20日(火) 校内衛生委員会
- 21日(水) 学校評議員会
- 22日(木) 授業参観・学級PTA・専門部会
- 23日(金) 天皇誕生日
- 26日(月) 卒業式に向けて(4・5・6年)



3月

- 1日(金) 6年生を送る会・お別れ遠足・お弁当の日
- 7日(木) ぐーじゃー号
- 14日(木) 卒業式予行
- 19日(火) ユンヌフトゥバの日
- 20日(水) 春分の日
- 22日(金) 卒業式
- 24日(日) PTA送別会
- 25日(月) 修了式・離任式

